

介護・医療連携推進会議 議事録

事業所名	ワンランド定期巡回須賀川		
所在地	〒962-0001 須賀川市森宿字安積田 211-2		
担当者名・連絡先	名越慶子	TEL 0248-94-8179	
従業者数	従業者総数 8 人（内訳：常勤 4 人、非常勤 4 人）（ 8 年 7 月 7 日現在）		
会議の開催日	令和 8 年 7 月 7 日（火）（令和 8 年度 第 1 回）		
会議の出席者	所属（団体等）名	職名	氏名
利用者	—	—	（欠席）
利用者の家族	—	—	（欠席）
地域住民の代表者	森宿地区 町内会	会長	野川 真伸
地域の医療関係者	公立岩瀬病院訪問看護ステーション	管理者	鈴木 美咲
地域の医療関係者	医療法人三愛会 さんあい訪問看護ステーション	所長	千葉 敦子
地域の医療関係者	リンクフォレスト株式会社 にじいろ訪問看護ステーション		伊藤 利恵
地域包括支援センターの職員	須賀川西部 地域包括 支援センター		吉田恵・伊藤祐子
知見を有する者等	森宿地区民生委員	民生委員	水野 民子
知見を有する者等	ワンランド郡山居宅支援事業所	管理者	浜津 汐里
利用者の状況	利用者総数 21 人 （ 8 年 7 月 7 日現在） うち、事業所と同一建物に居住する利用者数 0 人 要介護 1：9 人 要介護 2：6 人 要介護 3：3 人 要介護 4：3 人 要介護 5：0 人 — — —		
会議の協議内容 出席者紹介 会議の内容 事業の内容 ① サービス提供状況 ② 地域における介護、医療 の課題等	会議の冒頭運営会社法人代表から、出席者への御礼のあいさつがあった。 定期巡回型訪問介護事業は、年 2 回このような医療連携会議が義務付けられている事への理由と説明があった。多くの意見を集約しながら運営しなければならない旨報告があった。 続いて、出席者の自己紹介があり、それぞれの立場の説明があった。 本陣関係者が、郡山市内の病院との連携について、医療関係者との交流会で方位図された内容を、一部紹介された。 事例では、身元保証人や後見人、生活保護受給者や ACP が重要との事について報告された。 ①サービス提供報告では、事業所管理者から、利用者数と介護度の割合の報告があった。また、男性が7割ほどの報告も付け加えられた。なぜ、男性が多くなったかの質問に、社会的孤立者が増えたのと、親一人、子一人での親の年金暮らしが多くなった理由も付け加えられた。 事故報告、苦情報告は、事例が無かった。 ②地域における介護、医療の課題等 地域代表の区長から、地域の役員を 18 年続けているが、喫緊の課題としては、地域で活動をしている中で、催し物を開催しても、参加人数が以前は、150 名ほどいたが、最近では、80 名ほどの半分になった。何とか、地域活動を続けていくための奮闘をしているが、地域住民と顔の見える関係が築けなくなった。それでも、新しい形で交流の場を企画して実行している。しかしながら、回覧板等の周知の方法が行き詰ってきた。回覧しても、閲覧しない人が多くなり、活動が知られていないこともあった。また、協力してくれる団体も、減ったなかで、カラオケなどの企画を増やして		

	住民参加型の地域交流を行っている。 災害等の問題でも、地域を守ることが大事なことは、十分理解できるが、いざ、災害になったら、自分の身は自分で守るしかないのではないかと、最近感じている。地域で何ができるか、今後も模索していきたいと報告された。 医療関係者からは、サービス付き高齢者住宅に住んでいる人の中には、自宅に戻りたいと思っている人も少なくない。自宅に戻るには、支援が必要だが、法人としては、地域で支援にあたる方向を考えているがどのような事かと質問が出た。 法人からは、運営している施設の中には、地域に積極的に出ようとしている試みがある。地域の高齢者の困りごとの、掘り起こしに生活審自費サービス事業のチラシを5000部ポスティングして活動が始まっている。職員の雇用を始めて活動している。 また、医療関係者から、訪問看護ステーションとして、広範囲に活動しているが、地域の高齢者の中には、子供の世話にはなりたくなく、施設希望者もいる。しかしながら、介護度が、下がったりして、スムーズに入居に結び付かないこともある。 要介護度の区分変更も厳しくなったように感じる。 また、地域の高齢者の中には、生きていく目的がないことを会うたびに話す人が多い。何とか、希望を持って暮らすことを促している状態である。施設に入れない人がたくさんいるので、このような施設に入っている人は、考え方であるが、幸せではないかと思う時もある。 包括支援センターの出席者からは、耳の痛い内容が本日拓さん聞いた。地域を支える仕事をしている立場としては、すべて報告されていることが、今、現実と受け止めている。今後、地域の交流の場の発掘と、医療、介護関係者とのつながりを持ちながら支援していきたいとあった。 看護学校の実習生からは、地域では、エアコンの無いうちに住んでいる人もいることを知ると、どのような支援が必要なのか考えさせられることが多い。 これからいろんなことを吸収して看護師として頑張っていきたいとあった。 最後に、法人代表から、我々が、地域を支えていくのだという気概を持ってみんなで、協力しあって行きましようと思ってくれた。
苦情の状況	(直近約3か月又は前回報告以降)
事故の状況	(直近約3か月又は前回報告以降)
その他の報告事項 評価、要望・助言等	